

野草資源を活用する

全体構想

取り組みの内容

野草の資源価値の見直しと循環利用の促進

野草資源の利用拡大のための仕組みづくり
野草資源を活用した生産物の高付加価値化による
野草利用の拡大



全体的な評価

今回提出された「活動結果報告」29件のうち、野草資源に関連する活動は5件、そのうち主対象となる活動は2件でした。

阿蘇草原再生シール生産者の会の「野草堆肥を利用した農産品の流通拡大に向けた活動」では、会員が約10ha/年の採草を行うとともに研究者と協力して植物調査を行い、採草により植物の花茎数と種数が増加するという効果を数量的に把握。また、前年度よりイベント販売の回数が増えPR効果が高まったことが評価されました。今後は、調査結果を産品PR等に活用していくことが望まれますが、一方で、活動の継続に向けて生産者会員の拡大が課題となっています。

草原再生オペレーター組合の「採草による未利用草原の再生」では、約37haの未利用草地での採草を行い、約125トンの野草を収穫。堆肥用の野草は、

前年度より販売量が落ちましたが、売上総額は前年比で約28%増加しました。増加する飼料用野草のニーズに対応できていない状況にあり、今後の採草量を拡大していくためには、未利用草地を多く抱える牧野組合の協力が必要です。また、販売量を今の3倍に増やすことができれば専従職員の確保が可能となり、草原を活かした持続的活動としての発展が期待できます。

木落牧野組合では組合による採草が盛んに行われ、有畜農家が利用するほか組合員の農家に安価で野草を供給しており、イチゴ農家やアスパラ農家などの草利用が定着しています。

野草資源の利用に関する活動はまだ少ない状況ですが、草原の循環利用は阿蘇地域世界農業遺産の認定主旨でもあり、今後、新たな利用方法も含め様々な活動が展開されていくことが望まれます。

<野草資源に関連する活動結果報告>

NO	事業・活動名	担当
24	野草堆肥を利用した農産品の流通拡大に向けた活動	
25	採草による未利用草原の再生	
1	原野（やま）の恵み、先人の知恵を木落原野の未来へ（H25年度）	
10	野草地の利用を支援する作業道等の整備	
20	阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう！」プロジェクト	

NOは各活動の掲載番号に対応 = 奨励賞を受賞した活動

牧野管理小委員会における協議の対象： = 主対象となる活動 = 関連する活動

実施主体 阿蘇草原再生シール生産者の会
 実施場所 阿蘇市郡内(各牧野、生産者会員の農園)、熊本市
 実施期間 平成25年4月～平成26年3月末



背景・ねらい

阿蘇草原再生シール生産者の会では、阿蘇の草原の野草を堆肥等として利用した農産品等に「阿蘇草原再生シール」を貼付して流通することにより付加価値を高め、ひいては草原環境の保全・再生に寄与することを目的としている。今年度も各会員が野草を利用した農産品の生産に努め、シールを貼付して販売することにより、消費者に対して草原を守ることの大切さを普及、啓発する。

実施概要

活動を通しての草原再生PR・野草利用の促進

1. 常時販売	・四季彩いちのみや、あぜり庵、田園空間博物館、阿蘇とれ市場、きよらカアサ、物産館「自然庵」、高森湧水トンネル直売所など阿蘇郡市内。
2. アンテナショップ販売	・夏に1回実施
3. イベント販売：10回	・4～8月、10～12月 阿蘇マルシェ：農村公園あびか（阿蘇市） ・6/23 はなしのぶコンサートにあわせて販売：休暇村南阿蘇（高森町） ・12/19-20 観光物産発信展：NTT 西日本桜町ビル前広場（熊本市）
4. 産地直送販売	・阿蘇グリーンストックギフトでの野菜セット販売（7～8月「夏の贈り物」、12月「冬の贈り物」）
5. 採草活動	・阿蘇グリーンストックの野菜き支援ボランティアの協力を得て実施（2.5ha）12/5 草刈り、12/9 草集め、裁断。
6. その他	・H24 に引き続き、草原環境調査を実施。（8/23、9/13 植物調査）

生産者の会の活動拡大

- ・情報発信：イベント販売について新聞記事等で取り上げられた。
- ・会員拡大：生産者の会の活動に興味を示した生産者への声かけ。

その他

- ・阿蘇草原再生協議会へ委員として参加：2回
- ・賛助会員への野菜セット送付
- ・会議：役員会3回、出品者会議8回、総会1回

成 果

- ・会の採草活動で約2.5ha、さらに会員が各々採草している量も含めると10ha弱/年の採草を実施している。
- ・草原環境調査では採草による植物種の増加を確認できた。
 <草原環境調査(植物調査)結果>
 ＊花茎数の平均 50本(H24) 90本(H25)
 ＊開花種数 19種(H24) 27種(H25)
- ・昨年よりイベント販売の回数が増え、PRに繋がった。

実施者の感想

生産者会員の高齢化や参加者不足などを感じる。活動を継続していけるよう、応援や支援をお願いしたい。

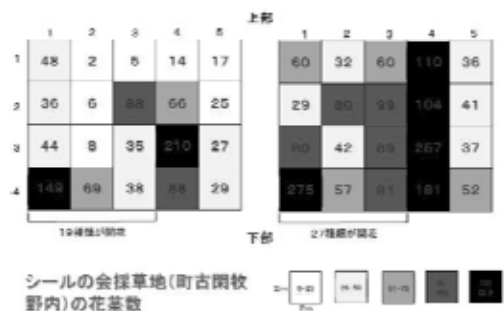
地元だけではなく、遠方からの宿泊者等も足を運ぶ阿蘇マルシェでは、毎月出店することができ、PRになったと思われる。



阿蘇マルシェ

草原環境調査(植物調査)結果

2012年8月(採草前) 2013年8月(採草1年後)



25 採草による未利用草原の再生

実施主体 草原再生オペレーター組合
実施場所 阿蘇市内
実施期間 平成25年4月～平成26年3月



背景・ねらい

現在未利用となっている草原の草を刈ることで、草原の保全と野焼きの危険性の軽減を目指す。採草された草を、飼料や堆肥用の資材として活用することで、地域資源の有効活用による活性化を図ることを目指す。

後継者不足で野草の調達に苦労していた畜産農家に適正価格で販売することで、畜産業への貢献も目指す。

これまで飼料に適さなかった野草をTMR化により、飼料に転換することで付加価値の向上を検討するなど、野草資源のさまざまな活用方法の検討を行う。

TMR (Total Mixed Rations、完全混合飼料): 粗飼料、濃厚飼料、ミネラル、ビタミンなどの飼料資源を、牛の養分要求量に合うように適切な割合ですべて混合した飼料またはそれを飽食させる方式

実施概要

阿蘇の地域資源である草を活用して冬場の農閑期における新規事業として、オペレーター組合という新たな担い手集団が組織されたことから、未利用野草の利活用の流れを継続し、農閑期の雇用を発生させ地域活性化を図った。

採草された草を、畜産農家の飼料や、耕種農家の堆肥用の資材として活用することで、地域資源の有効活用による活性化を図った。

- ・ 飼料用の野草は8月から採草を開始したが、需要に対して供給量が少なかったため、大型農家数件への販売にとどまった。堆肥用の野草は、前年度より販売量が落ちたが、売上総額は前年比で約28%増加した。
- ・ 11月から堆肥・マルチ用の野草の採草を行い、トマト農家や果樹農家、お茶農家にサンプル提供を行った。
- ・ 堆肥・マルチ用の販路拡大のため熊本県花き組合と連携した合同営業訪問を行い、野草の商品紹介と販路拡大に努めた。

成 果

草原保全・再生への貢献

平成25年度は、未利用草地のうち約37haの採草を行い、約125トンの野草を収穫した。未利用草地を採草することで、野焼きの危険性を軽減できた。

活動の持続性・発展性

今年度は飼料用のニーズが増えた事により夏の採草を強化したが、それでも足りない状況である。今後、採草量を拡大していくためには、未利用草地を多く抱える牧野組合の協力が必要である。

また、堆肥用の販路拡大も重要である。今後は、持続的な活動につながるよう仕組みづくりを進めていきたい。

実施者の感想

野草の販売量を3倍に延ばして、何とか持続的な活動に発展させたい。

また、草原の野草の利用が保全につながる事をアピールしていき、野草飼料用及び野草堆肥用の販売量を拡大するために、阿蘇市の配慮により頂いた充足・更新の機材を活用して野草商品の生産を向上させたい。

草原再生と結びついた観光を進める

全体構想

取り組みの内容

草原環境の保全・再生に寄与する観光利用の推進

草原環境を持続的に活用できるような観光の仕組みづくり

観光で草原を利用する際のルールづくり

観光事業者の草原環境の保全・再生への関与



全体的な評価

今回提出された「活動結果報告」29件のうち、草原環境の保全・再生に寄与する観光利用の推進に関連する活動は5件、そのうち主対象となるのは4件でした。


阿蘇ミュージアムによる「阿蘇人（あそんもん）ツーリズム」は、修学旅行生を対象に継続的に実施され、阿蘇インタープリターや地元の人々による受け入れ体制が整いリピーター増につながっています。阿蘇北外輪山トレッキング協議会では外輪山壁等に残る「草の道」を、地元と調整しながらルートを開拓しトレッキング道として活用しています。阿蘇トラベルデスクによる「阿蘇の草原スタディーツアー」は、写真教室の会員を対象とした継続的な活動です。カメラを通して阿蘇を知るガイド付きツアーとして一定の成果を上げています。


NPO法人押戸石の丘による「押戸石の丘周辺原

野の環境保全」は、新たに活動報告が提出された取り組みです。近年、パワースポットとして注目を集める押戸石（南小国町）の観光客増に伴い、ゴミの放置や草原の劣化等が見られる押戸石の丘周辺の環境保全に向けて、地元の人々が法人を設立。アクセス路や遊歩道、トイレの整備など利用客受け入れのための環境整備を進めるとともに、来訪者に対して草原を守ることの重要性を説明するなど、草原の適正利用の促進にも貢献しています。

健康志向の高まりとともに、阿蘇観光においてもトレッキングや歩くことが注目されています。今後、様々な形でのルート整備が考えられますが、草原利用を検討する際には、畜産等への影響に配慮して関係者との調整を図ることはもとより、地元の人々が参加・協力できるような形での企画が求められます。

< 草原観光利用に関連する活動結果報告 >

NO	事業・活動名	担当
26	阿蘇北外輪山及び中央火口丘の草の道再生と活用	
 27	阿蘇人（あそんもん）ツーリズムの実施	
28	阿蘇の草原スタディーツアー（写真合宿ツアーなど）	
29	押戸石の丘周辺原野の環境保全	
17	阿蘇の火山体験学習	

NOは各活動の掲載番号に対応  = 奨励賞を受賞した活動

牧野管理小委員会における協議の対象： = 主対象となる活動 = 関連する活動

26 阿蘇北外輪山及び中央火口丘の草の道再生と活用

実施主体 阿蘇北外輪トレッキング協議会
実施場所 阿蘇北外輪山周辺及び中央火口丘
実施期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日



背景・ねらい

北外輪山や中央火口丘は40年ほど前まで、牛道を使って採草や放牧が行われていた。現在は、車両等を利用しての運搬が主流となり、それによって使用された草の道は藪となり、雑木が茂り、足を踏み入れる事もなくなった。

その草の道を整備し、阿蘇で四季を通じて山歩き（トレッキング）を楽しむ多くの人たちに、素晴らしい阿蘇の風景を楽しんで頂くため、また、健康を願う多くの人たちに歩いて頂くため、トレッキングを行う。

実施概要

- ・阿蘇北外輪山周辺や中央火口丘にある草の道を再生活用し、トレッキングを行っている。
- ・自然の雄大さ、文化、歴史などを参加者にお伝えしながら、毎月3～4日のペースで歩いている。
- ・また、草原を利用して広葉樹の森づくりを進めている。
- ・大雨の場合は中止。
- ・毎月3日～4日間（日曜日）実施。

成 果

- ・4月～3月、通年実施。年間700名が参加。
- ・各コースは、自然に恵まれ、文化、歴史なども多様であり、参加者には好評を得ている。
- ・外輪山一周を希望されるお客様が増えている。

実施者の感想

雄大な自然の中を歩く事で、感動がある。各コースとも研究され、安心して歩く事ができる。



新緑の天空の道を行く（湯浦）コース
（2013年5月12日）
*阿蘇北外輪山トレッキング協会HPより



第3回北外輪山縦走コース
（2014年1月12日）
*阿蘇北外輪山トレッキング協会HPより

実施主体 特定非営利活動法人 阿蘇ミュージアム
 実施場所 阿蘇周辺のフィールドおよび地元の受け入れ家庭
 実施期間 平成25年5月17日～平成25年11月6日



背景・ねらい

阿蘇において、自然体験や文化体験などの学習活動とともに、阿蘇の人々との“ふれあい”を体験することも重要である。阿蘇で様々な事業（農業、観光、陶芸、畜産など）に携わっている方々に、直接話を聞いたり、仕事の手伝いをさせてもらうことによって、生き様や考えなどについて感じ取る。このことが阿蘇の持つ特有の自然や文化を知ることにもつながる。

実施概要

主に長崎からの修学旅行生を対象に実施。子どもたちは、10～15人ほどのグループに分かれて、それぞれの受け入れ家庭において半日間、仕事のお手伝いをしたり、自然体験活動しながら、阿蘇で生きてきた人（阿蘇人）の話を聞くプログラム。今年もそれぞれの受け入れ家庭で、様々な学習活動ができた。

阿蘇人と子どもたちのコーディネーターの役割をインタープリターが担った。



阿蘇人からのお話

成 果

< 期間中の利用者数 >

- ・小学生 1,489名（前年比 +136名）

< 受け入れ態勢 >

- ・阿蘇インタープリター（延べ120名）と
阿蘇人（延べ101名）

実施者の感想

毎年参加の学校も多く、リピーター率の高い取り組みである。

子どもたちは、阿蘇人と一緒に、南阿蘇の湧水を使って阿蘇の郷土料理を作ったり、草原であか牛とのふれあいや生き物観察、農作業のお手伝いなど、阿蘇の自然を満喫しながら、多くのことを体験できた。

また、受け入れ家庭においても、子どもたちと過ごす時間を楽しみにしていただいております、とても良い関係を築くことができている。



とんぼ玉作り体験

28 阿蘇の草原スタディーツアー

実施主体 長野良市（阿蘇トラベルデスク）
実施場所 阿蘇地域
実施期間 平成25年4月～5月



背景・ねらい

私は3年前、着地型旅行を積極的に行う旅行会社として新規参入した。今後、阿蘇に於ける着地型旅行商品を多く企画していくが、特に草原と関わり合いをもったプログラムを作っていく。観光旅行というより、阿蘇を学ぶスタディーツアーを企画する。

実施概要

熊本市内で行っている写真教室の会員（約150人）の方を対象に、素晴らしい阿蘇の草原や関連する見所をガイド付きで巡りながら写真撮影を行うツアーを実施した。

参加者の年齢は50～80歳代、阿蘇に関する経験/知識にあわせたガイドや撮影に際して配慮すべきことやマナーも周知しながら、参加者が阿蘇の草原について理解を深め、それが写真撮影にも反映されるよう進めた。

- ・4月29日：小国湧水峡 鍋ヶ滝 北外輪山、参加者20名
- ・5月3日：高森殿の大杉 高畑年祢神社（蘇陽）、参加者6名
- ・5月25日～26日（1泊2日）：阿蘇合宿（北外輪 産山/扇田・山吹水源）、参加者7名
参加人数により貸切バス、マイクロバス等により移動

成 果

ツアーの参加者は熊本市内の人々で、度々阿蘇に来ているが、写真を通して見た阿蘇、ガイド付きのツアーで阿蘇の新しい知識や視点に気づき、とても良かった。定期的に季節違いで行って欲しいという意見もあった。

実施者の感想

本報告の企画は旅行業としてではなく、写真教室の会員に阿蘇の良さを理解してもらうために実施しているため、日帰りで5300円/人（交通費、ガイド料、保険等）を基本として設定。しかし、貸切バス料金の値上げ等により今後も料金を上げずに実施していくのは難しい状況にある。

旅行会社としては着地型旅行商品の企画実施の難しさを体験している。様々なエネルギーを要する割にはビジネスとして成立しにくい点がある。しかしながら、地域の旅会社としてどのような方法で実施していくのか、継続しなければならないと思いながら実施している。



扇田



高森殿の杉

29 押戸石の丘周辺原野の環境保全

実施主体 NPO法人押戸石の丘
実施場所 押戸石の丘周辺原野（上中原財産組合所有地）
実施期間 平成24年9月15日から通年



背景・ねらい

押戸石の丘周辺の原野は地元上中原の農家が、あか牛の放牧地として、また、あか牛の冬の飼料の採草地として代々受け継ぎ、野焼きや道路の整備を行いながらその環境を守ってきた。

近年パワースポットとして多くのマスコミや旅ガイドブックに取り上げられ、多くの人を訪れるようになった。しかし、中には心ない人がおり、缶・ビン、ビニール袋などを放置し、また、四駆車やバイクなどで草を荒らす事態が見られるようになった。

私達は、この自然環境と生活を守る為、そしてこれを次世代に引き継ぐ為にNPO法人を立ち上げ、その保全につとめている。

実施概要

- ・理事が交代で管理事務所に常駐し、来場の皆様にパンフレットの配布と、押戸石の丘や草原を守り継いで行く大切さ等についての説明を行った。
- ・道路整備、ゴミ拾い等の環境保全に努めた。
- ・観月会を実施、地元の神楽舞とのコラボも行った。
- ・押戸石周辺では毎年野焼きによる草原維持管理を行っている。野焼き・輪地切りは、当法人メンバーが所属する上中原原野組合が実施する。



押戸石

成 果

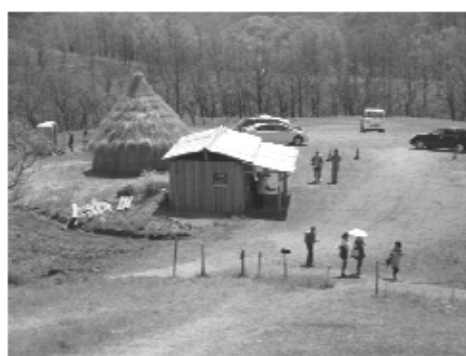
- ・多くの皆様方に、草原を守ることの重要性、また、次世代に引き継ぐことの大変さを理解していただいた。
- ・押戸石の丘区石群の古代の謎やロマン、360°の雄大な景観を堪能していただいた。

<平成25年度>

*年間来客数：25,000名

*サポーター登録数：34名

*実施面積：10ha



NPO法人押戸石の丘管理事務所

実施者の感想

管理・運営を継続することの重要さとむずかしさを感じた。さらに多くの皆様に押戸石の丘を知っていただき、自然の環境の大切さを感じてもらいたいと思う。



押戸石の丘から望む草原景観

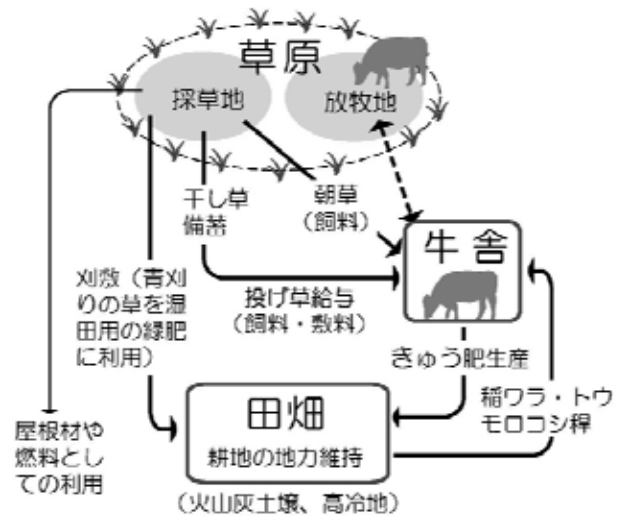
コラム3 . 草原をめぐる動き

阿蘇草原再生をめぐる動きは大きく進展！関係自治体をはじめとして様々な動きが見られ、阿蘇の草原の価値を評価しながら世界に情報発信する動きも広がっています。

阿蘇地域が世界農業遺産に登録！

「世界農業遺産」は、国際連合食糧農業機関（FAO）が2002年に開始した仕組みで、伝統農法や多様な生態系、農業景観などを受け継ぐことをねらいとしています。

熊本県や地元市町村、関係団体による「阿蘇地域世界農業遺産推進協議会」や民間の研究会が中心となって働きかけてきた結果、草原の維持と草資源の循環的な利用が高く評価されて、平成25年5月に登録されました。これを機に、地域全体で草原を活かした持続的な農畜産業に取り組み、広くアピールしていくことが期待されます。



かばしまイニシアティブNEXT

熊本県では阿蘇の草原の保全・再生に関連して畜産や観光、環境関連など様々な施策を実施してきましたが、平成24年5月に蒲島県知事より「かばしまイニシアティブ」として、草原再生の取り組みそのものも支援していくことが表明されました。現在は、平成25年度～27年度に取り組む施策をまとめた「かばしまイニシアティブNEXT」のもと、草原を基盤とした阿蘇地域の持続的な成長の実現を目指し、「創造的な草原再生の推進」「阿蘇の世界的ブランド力向上」のため具体的な取り組みを進めています。

<p>創造的な草原再生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な支え手拡充への取り組み ・草原ボランティアの試行 ・野焼きの地元後継者育成支援 野焼き再開に向けた支援 ・北外輪山「西湯浦牧野」で約45haの野焼き再開を支援 民間主体の取り組みへの支援 ・ASO草原ファンクラブ(阿蘇草原再生協議会)等
<p>阿蘇の世界的ブランド力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界文化遺産登録に向けた取り組みの推進 世界農業遺産認定を契機とした新たな取り組み 世界ジオパーク認定に向けた取り組みと連携 等

草原保全と利活用促進に向けて「草原特区」認定！

平成25年9月、阿蘇地域が第4次地域活性化総合特区として認定されました。阿蘇地域8市町村が「千年の草原の継承と創造的活用総合特区」(略称:「草原特区」)として申請していたもので、認定期間は平成29年度末まで。22,000haにも及ぶ広大な草原の維持や利活用に向けて、障壁となる規制の緩和など国の応援を得ながら推進していくことが期待されています。

総合特区により実現を図る目標

世界的遺産であり、地域にとって誇りである阿蘇の草原を次世代に伝えていくとともに、草原の新たな活用を進め、草原とつながる観光スタイルの創造と資金環流のしくみづくりによる地域の活性化を目指す。

政策課題	解決策	新たな規制の特例措置などの提案
<p>政策課題1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草原(自然環境)の維持・活用危機に瀕している草原を次世代へ継承 	<p>解決策1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草原維持管理作業効率化 恒久的な防火帯の整備など 	<ul style="list-style-type: none"> ○野焼きに支障が生じる小規模樹林等保安林について規制の特例、緩和
<p>政策課題2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光消費や食料生産基盤の確保 新たな観光スタイルの確立や産品流通 	<p>解決策2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草原利活用連携促進 草原ビジネスモデルの確立など <p>解決策3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草原案内システム構築 案内人システムの整備など 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業振興地域で整備可能な農業用施設の要件の緩和、申請手続きの簡素化 ○第三種旅行業の専業型企画旅行催行区域制限の緩和

トピック: 草原を軸にして阿蘇を売り込む!

九州を代表する観光地である阿蘇。観光ニーズの多様化、本物志向の高まりとともに、有史以前から営まれてきた火山とともにある人々の暮らしや文化、豊富な水の恵み、雄大な景観など、様々な切り口から注目を集めていますが、草原はそれらの象徴的な存在と言えます。この草原を強調することで阿蘇をアピールする取り組みを紹介します。

阿蘇ジオパークと草原

ジオパークとは

地球科学的に特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産が数多く点在する地域、大地の公園を、"そこに住む人々の文化"も含めて、ジオパークといいます。

阿蘇ジオパークには、「阿蘇火山の大地と人間生活」というテーマを理解するための鍵となる、33カ所のジオサイトが点在しており、阿蘇ジオパークの成り立ちや歴史、文化などを楽しく学ぶことができます。

阿蘇地域は、2009年「日本ジオパーク」に認定され、現在は2014年秋の「世界ジオパークネットワーク」加盟認定を目指しています。

草原は阿蘇ジオパークのシンボル

阿蘇地域では、活発な火山活動とカルデラ地形、火山灰土壌で栄養分の少ない土地、冷涼な気象条件といった自然条件の下、人々は草原での放牧、採草、野焼きを組み合わせた資源利用のサイクルを繰り返すことによって農業生産性を高め、暮らしを維持してきました。阿蘇の草原はその基盤であると同時にそれらの営みによって形づくられた貴重な自然環境でもあり、阿蘇ジオパークのシンボルと言えるものです。

また草原は、環境負荷が少なく安心安全で安定的な食料供給基地という、阿蘇地域の強みを表わすシンボルでもあります。火山をテーマにしたジオパークは少なくありませんが、巨大なカルデラ地形に広がる草原は地域にとってかけがえのない存在であり、阿蘇ジオパークらしさを伝えるものとして期待されています。

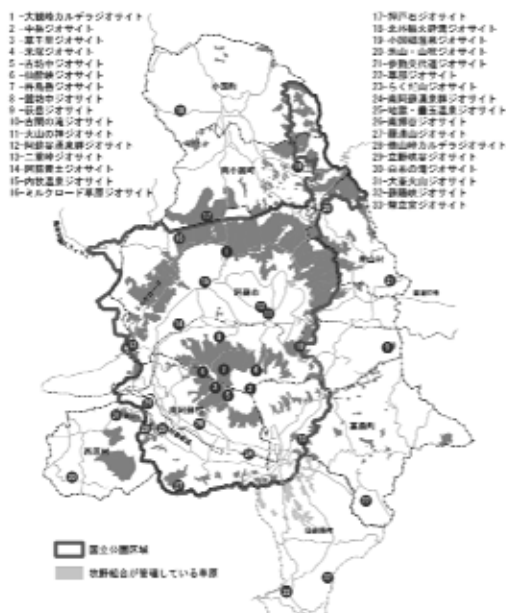
阿蘇ガイド養成講座

阿蘇におけるガイドの統一的な育成とレベルの向上を目的に、阿蘇をフィールドとしたガイドツアー等に関わる6団体が集まり、「阿蘇ガイド養成講座実行委員会」を設立しました。

同委員会では、平成26年より、(特活)阿蘇ミュージアムによる「阿蘇インタープリター養成講座」と阿蘇ジオパーク推進協議会による「阿蘇ジオガイド養成講座」を連携させた「阿蘇ガイド養成講座」をスタート。阿蘇を訪れる人たちに、阿蘇の草原をはじめとする自然や歴史・文化、伝統などを分かりやすく、楽しく伝えることはもちろん、巨大カルデラの形成に始まる阿蘇火山の大地の成り立ちや、そこに生きてきた人々の暮らしのストーリーを正しく語ることでできるガイドの育成を目指しています。

阿蘇ガイド養成講座実行委員会メンバー
(財)阿蘇地域振興デザインセンター、(財)阿蘇火山博物館久木文化財団、
(特活)阿蘇ミュージアム、阿蘇ジオパーク推進協議会、阿蘇エコツーリズム協会

ジオサイトと国立公園



テーマ 「阿蘇火山の大地と人間生活」
3つのサブテーマ
巨大カルデラに刻まれた噴火の記憶
地球の息吹を間近に感じる中岳火口
火山がもたらした恵みと人々の暮らし